

【パネルディスカッション】
テストプロセス改善技術から探る
テストの“改善”とは
TMMI概説資料

池田 晓 (ASTER)

自己紹介

- ▶ 名前：池田 晓（いけだ あきら）
- ▶ 所属：製造業 医療系機器開発部門
- ▶ 職歴：前職入社後、組込みシステムの設計、ソフトウェア品質保証業務を経て、設計/テストツールの導入やプロセス改善に関する業務に従事。現職では医療系機器の開発に従事、主にテストチームの運営。

- ▶ 社外活動

- ▶ 委員等

- ▶ ASTER（ソフトウェアテスト技術振興協会） 理事
 - ▶ JaSST（ソフトウェアテストシンポジウム） 実行委員
 - ▶ SQiP 運営委員
 - ▶ AFFORDD（派生開発推進協議会） 運営委員
 - ▶ NaITE（長崎IT技術者会） 代表

- ▶ 執筆活動（単行本）

- ▶ ISTQBシラバス準拠 ソフトウェアテストの基礎、センゲージラーニング，2008
 - ▶ ソフトウェアテスト入門 押さえておきたい<<要点・重点>>，技術評論社，2008
 - ▶ ソフトウェア品質知識体系ガイド—SQuBOK Guide，オーム社，2007
 - ▶ マインドマップから始めるソフトウェアテスト，技術評論社，2007，等

■テストプロセス改善技術との関わり

TMMiやTPIについて導入支援や相談に乗ってきた。

また、QA時代に品質保証活動としてテストプロセスの改善に取り組んできた。

その他、Test.SSFなどスキル標準をベースにしたテストチーム改善など。



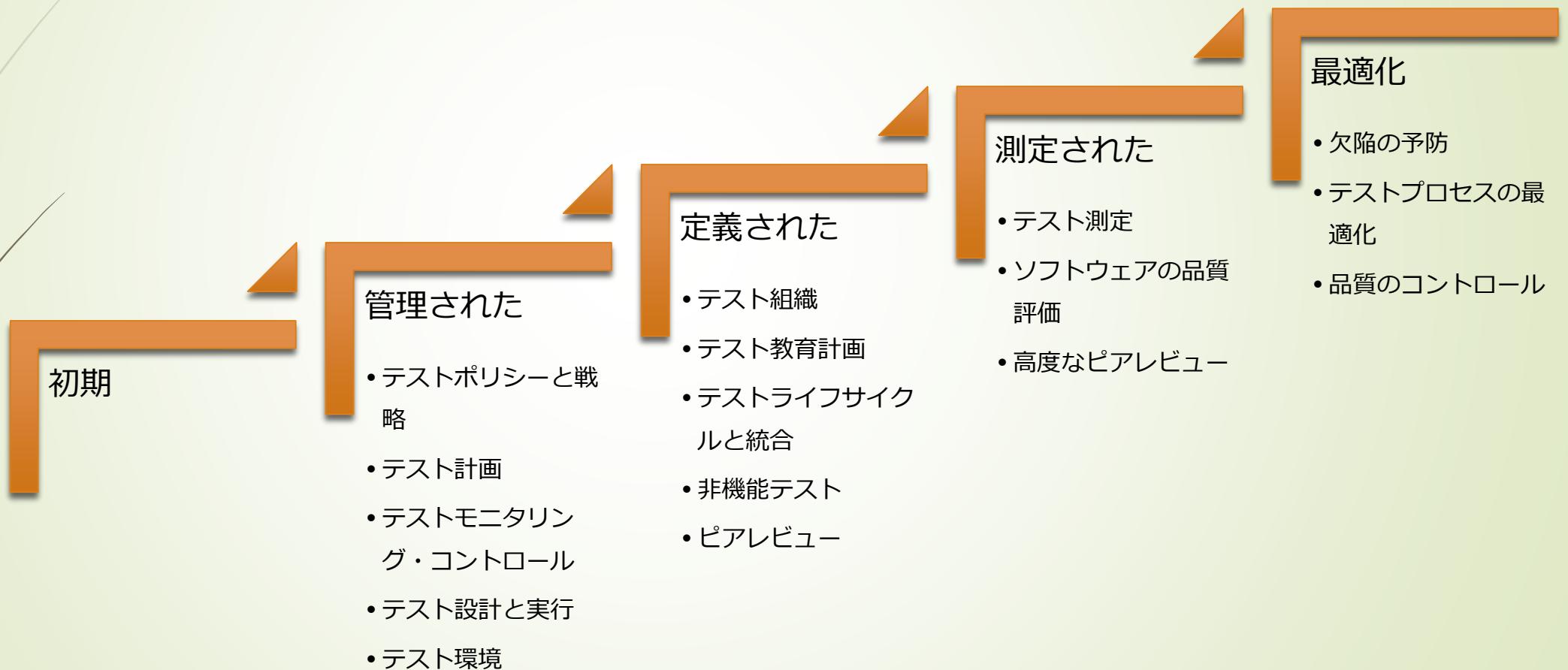
3

TMMiの概要

TMMiの構造



TMMiの成熟度レベルとプロセスエリア



TMMi Foundation 著
「TMMi Reference Model r1」から引用、訳

TMMi モデルの構成要素

プロセスエリア

- それぞれの成熟度レベルに設定された改善対象となるプロセス
- 各プロセスエリアには「目的」「イントロダクションノート」「スコープ」が設定され、複数のスペシフィック/ジェネリックゴールを持つ
- あるプロセスエリアを達成するためには、このゴールを満足しなければならない
例えば、レベル2は「テストポリシーと戦略」「テスト計画」「テストのモニタリングとコントロール」「テストの設計と実行」「テスト環境」をもつ

スペシフィック/ジェネリックゴール

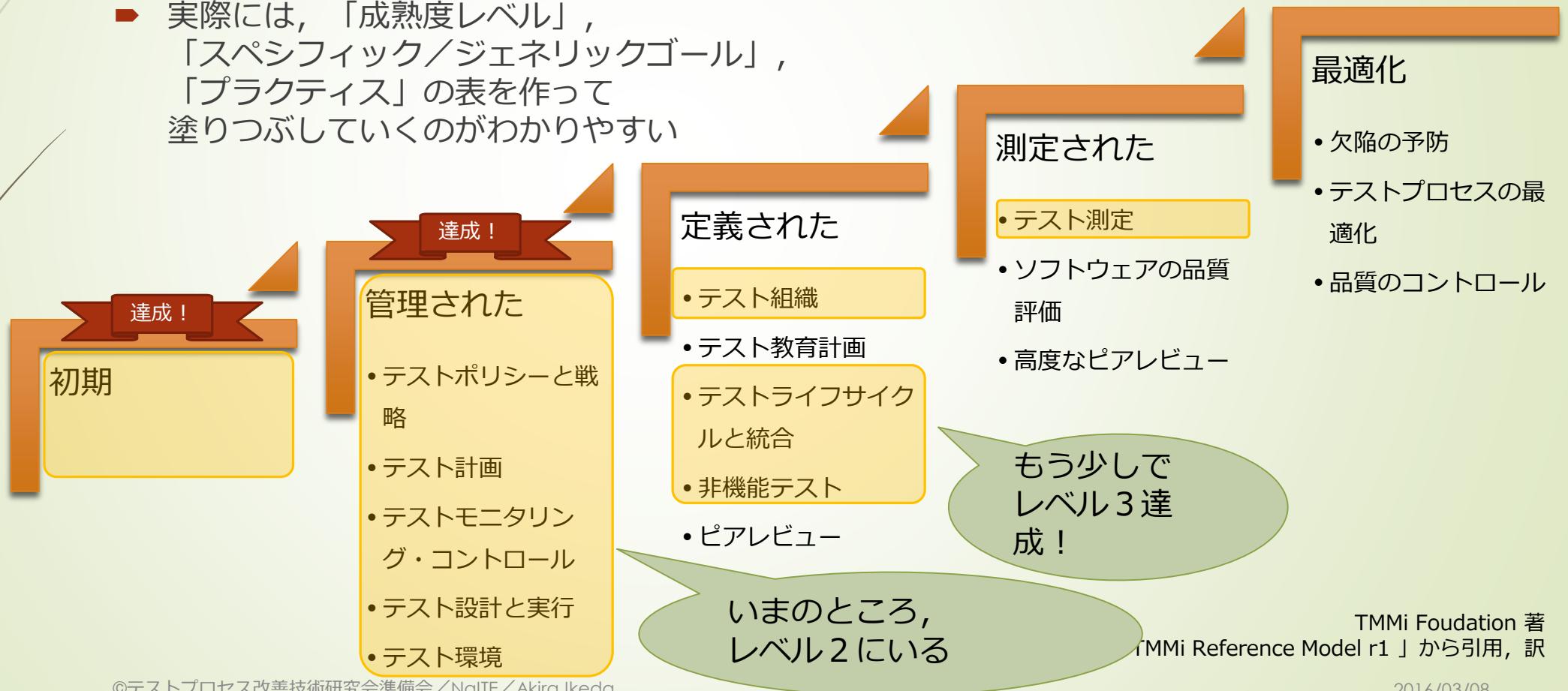
- スペシフィックゴールとはそのプロセスエリア固有のプラクティス目標
- ジェネリックゴールとはそのプロセスエリア固有ではない共通的なプラクティス目標
- それらスペシフィックゴールとジェネリックゴールには、それを達成するために必要な「プラクティス」が設定されている

スペシフィック/ジェネリックプラクティス

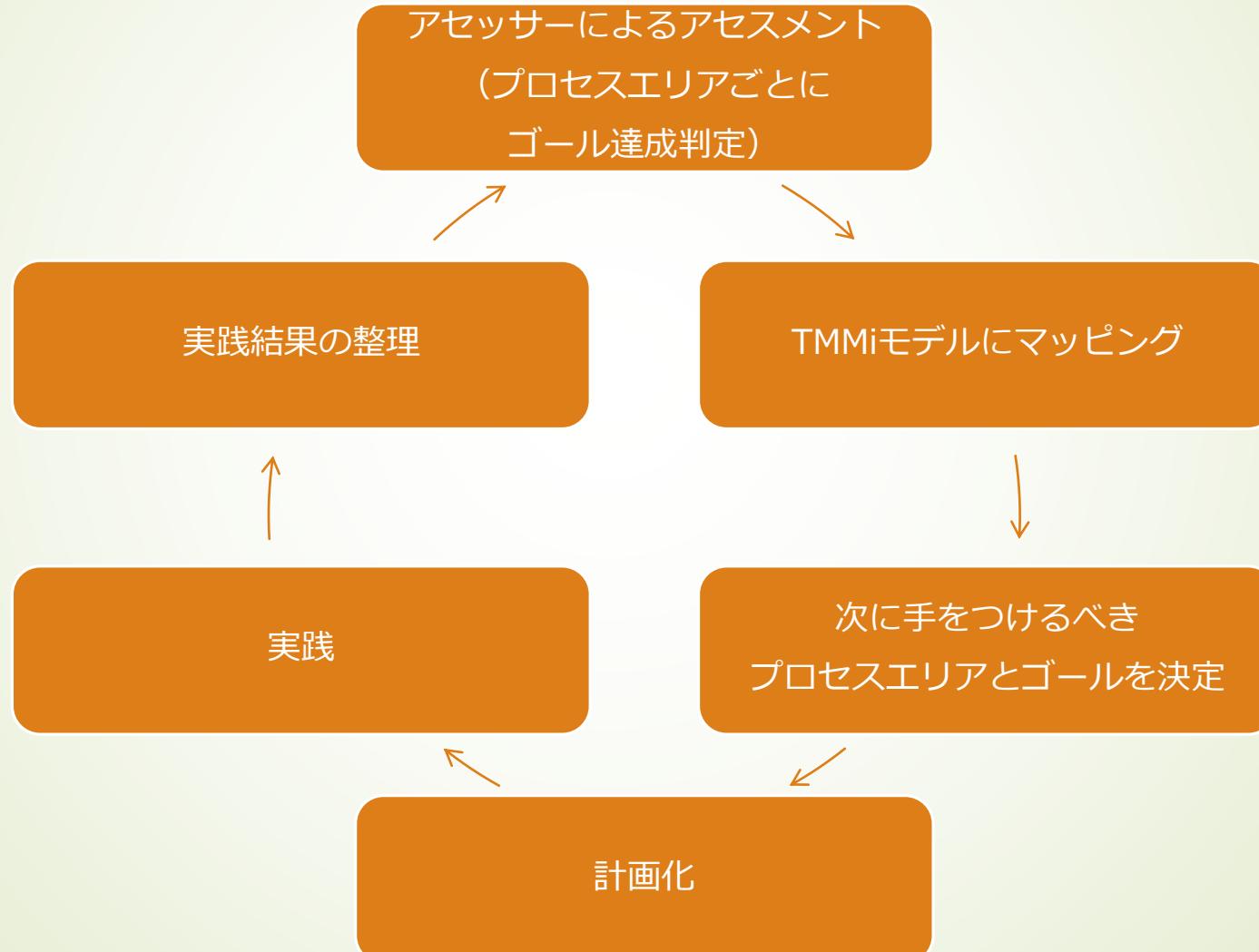
- スペシフィックゴール/ジェネリックゴールを達成するためのプラクティス項目
- プラクティスには、その達成を助けるための情報として「成果物の例」「サブプラクティス」「ジェネリックプラクティスの詳細」「参考情報」が示される

TMMiの成熟度レベルとプロセスエリア

- ▶ まずは達成したPAをモデルに塗っていくことで見える化できる
- ▶ 実際には、「成熟度レベル」、
「スペシフィック／ジェネリックゴール」、
「プラクティス」の表を作つて
塗りつぶしていくのがわかりやすい



TMMiによる基本的な改善サイクル



Thank you !

是非TMMiに取り組んでみて下さい。